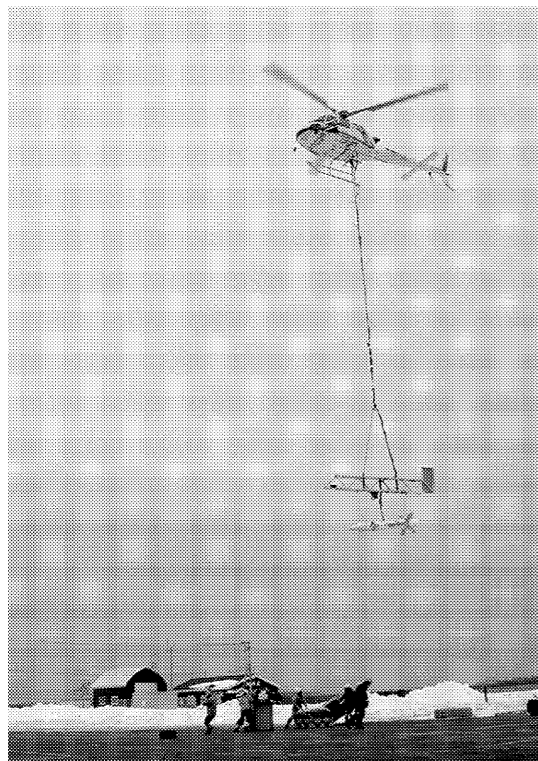


IHIエアロスペースが大樹で



IHIエアロスペースが昨年行ったロケット型機体のつり下げ実験。今年は落下と回収に取り組む

上空2キロからロケット型機体投下

自動制御で回収実験

誘導する技術確立へ

【大樹】宇宙関連企業のIHIエアロスペース(本社東京)は2月3日から2週間、大樹町多目的航空公園付近の原野で、ロケット型の機体を使った落下回収実験を行う。ヘリコプターで機体を上空2キロへ運んで落下。搭載したパラグライダー型のラムエアパラシュートを開き、目的地点まで誘導、着地させる。(浅井文人)

特徴的な点は、機体内部に組み込まれたフライトコンピュータがプログラム通りに指令を出し、自動制御で機体やパラシュートを操って回収すること。予定通りに進めば、地上からの遠隔操作は必要としない画期的なシステムだ。

昨年2月には、同様の機体をヘリで上空についた状態で機体の詳しい飛行特性などを把握した。今年、実際に機体を落下、回収する試験に取り組む。

同社は今後、数十回四

切り離れた後、動翼で姿勢を安定させ、10秒後に減速用のパラシュートを開く。続いてラムエアパラシュートを開き、ゆっくりと滑空させる。

機体とラムエアの間は、左右に2本のロープがつながっている。これ

を引っ張るなどして操り、落下地点から2キロ先の目標地点に誘導。着地と同時にエアバッグが開き、機体を保護するとい